



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2017年1月1日

1月号・第180号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一

あけましておめでとうございます。



トリプル受賞に喜びのベースキャンプ

Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることが出来ます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩・新年挨拶	1	FFなら交流会 & 12月例研・報告	12
多土済々	2	青垣春秋	13
Monthly Repo.ならやま	3	俳句百景	14
里山の今	4・5・6	癒しの散歩道 & ならやま茶論	15
「鳥」シリーズ & 字遊字感	7	ならやまプロジェクト	16
11月・月例研修会・報告	8	新春講演会 & 夢未来を語る集い・案内	17
新そば祭り・報告	9	行事案内・行事予告	18
12月・自然教室・報告	10	幹事会報告・編集後記	19
芋煮会・報告	11		

壮春力歩

会長 鈴木 末 一

あげましておめでとうございます

皆様方におかれましては、輝かしい新春をお迎えになったこととお喜び申し上げます。

昨年は創立 15 周年、ならやまプロジェクト 10 周年の記念の年に相応しく、数々の栄に浴することができました。地域社会の一員としての活動実績が広く認知していただけたものと思います。これらの喜びを礎にして、中長期の展望を確立していくことが求められています。

15 周年で、過去を振り返るばかりでは、進歩は望めないと思います。従前以上に「お一人お一人が主役」であります。15 周年という節目に立ち、この先、どのような未来を目指していくのか、どのような会を作っていこうとするのか等、過去を振り返ることと同じくらいに大切ではないでしょうか。つきましては、次のような諸点について、ぜひ皆様方のご意見をお聞かせいただきますようお願いいたします。

- ① 「ならやまユートピア構想」をより具体的なものにすること、であります。「創立十五周年記念誌」に、会員の皆様方から貴重なご提言をお寄せいただきました。お一人お一人のお言葉の中に秘められています思いの丈を集大成し、理想郷・・・Eutopia・素晴らしく良い場所・・・のデッサンを真っ白なキャンバスに描いていこうではありませんか。
- ② 会員間のコミュニケーションをより一層深めるためには、どのような視点で運営していくのがベターなのか、であります。例えば、「ならやまプロジェクト」活動における課題として、どのようなことが挙げられるのかを、今一度総点検する必要があると考えています。一斉協働作業日やミーティング・タイム等の設定も、一つの方法として取り組んでまいりましたが、より良いアイデアがありましたら、是非ともお聞かせください。

なお、ミーティング・タイムにつきましては、他のグループ活動の様子を聞いてみようと思われましたら、ご希望の所にご参加していただいても結構かと思います。

- ③ 本年 4 月からは、月例研修会と歴史文化クラブの研修会とは、従前のような同月開催ではなく、皆様方により参加していただきやすいように、相互隔月開催方式に切り替えていくことになります。基本的に月例は偶数月、歴文は奇数月にそれぞれ実施していくことで企画立案していただきます。
- ④ 自然観察会につきましては、会員の皆様に身近な自然に親しんでいただこうとの思いから、日常の活動拠点であります「ならやま里山林」を四季にわたり研修することなど、新しい観察会のあり方について立案していただきました。
- ⑤ 自然工作につきましては、イベントへの出展や公開イベントに向けて、諸準備に過大のご負担をお掛けしてきたきらいがありました。
会の年間計画の中で、バランス良く計画し、出来る限りスタッフの方々に、集中したご負担をかけることのないように、材料の準備段階などで協働作業的なことへも拡大してみても、と模索しています。
- ⑥ 歴史文化・蕎麦文化クラブにつきましては、着実な歩みを積み重ねていただき、研修研鑽はもとより、会員相互の交流・親睦等にも一定の成果を挙げていただいています。更なる充実のためのご要望、ご提案をお聞かせください。
以上、会の諸活動につきまして建設的なご意見をお聞かせいただきたいと思います。
本年もよろしくお願いいたします。



私たちの周りの生き物の多様性に気づき、守り、賢く活用することは、私たちだけではなく、私たちの子どもたちが、この豊かな恵みを受け続けるための大事な取り組みです。



マルチなエンターティナー

有元 康人さん

顧問 川井 秀夫

広島県尾道のご出身。現役時代は大阪を中心に繊維業界にエンジニアとして活動された由。尾道と言えば瀬戸内の潮騒が聞こえ、背後の高台には千光寺公園が季節を彩り、林 芙美子・志賀直哉など文人たちがこよなく愛した地でもある。最近では都会の猥雑を避けて町屋をリフォームして移住する人が増えていると言われます。



入会の動機は、蕎麦クラブの席で谷川さんの奨めだったようですが、里山の集会では後ろのポジションで遠慮がちに佇立され常々謙虚な方と思っておりました。

昨年 5 月頃だったでしょうか、ハワイマラソンで転倒され現地の病院に入院されたと聞き、えー、この年でフルマラソンそれもハワイで・・・吃驚したことを憶えております。

今回の取材でマラソン人生を熱く語って頂きました。48 才で奈良新聞の大会に参加され、飽くなき挑戦を今なお続けておられます。ベストタイムは 3 時間 43 分。常に 4 時間を切ることを目標に、本番までには 1,000 キロを走破されると言われています。

昨年 1 2 月には 13,000 人が参加した奈良マラソンでは 3 時間 54 分で目標を達成されました。

少年時代、坂の多い尾道の町で培われた基礎体力の賜物でしょうか。

私など退職直後に奈良公園から藤原京まで「奈良マラソンウォーク」に参加し、昼食を挟み 9 時間を要し完歩しましたが、37 キロが限界で、あとは精神力だけでした。有さんは超人ですなー。

ご自慢の趣味に絵画のご造詣が深くパステル (クレヨン) の世界で作品を残されています。

(GALLERY ならやま) でもお見受けしますが、先年、展示会で作品を鑑賞する機会があり、孫さんと並び池端で釣り竿を垂れる写真を模写された自画像を拝見いたしました。ご本人のズボンの襷が見事に描かれ、瘦躯の大腿部が透視できる程の写実の妙を感じました。

閑日には、伊賀上野の阿山町まで野外活動に奔走される事も屡々で、テニス・ソバ打ち・山野草の育成など余暇を楽しんでおられます。

この一兩年、春日大社の祭礼「若宮おん祭」にも当会の同志たちと行列に参加、奴姿の雄姿が見られます。毎年 12 月 17 日、皆さんも応援にどうぞ・・・。

古諺に「能ある鷹は爪を隠す」とありますが、正にピッタリの方とお見受け致します。この耐久力と精神力。物事へのチャレンジ魂、ヤング シニアの鏡となる当会の背骨の一翼としてご活躍を刮目しております。



Monthly Repo. ならやま

八木 順一

11月24日(木) 活動 晴れ 74名+5名

恒例の新ソバ祭り。今回は会創立15周年記念の祭りになったが、天候にやきもきさせられる。しかし、天気も回復し、無事実施。ぶっかけソバやにしんソバに舌鼓を打ち、秋の恵みを腹いっぱい堪能する。今年で7年目のこの催し、ソバクラブメンバーだけでなく、会をあげての行事になり、ますます充実してきた。同時に収穫された野菜の量も半端でなく、こちらのほうもエコGの努力の賜物。頭が下がる。有り難いことである。



Gの活動も祭りの準備や、野菜の収穫の他、池の整備や観察路補修準備に取り組んだ班もあった。また、15周年記念の植樹準備を行ったGもあった。来訪者5名。

12月1日(木) 活動 曇り 65名+1名

いよいよ12月を迎え、協働作業やグループミーティングと忙しい一日になった。特に、協働作業は部分皆伐地区の枯れ木や、第五地区の竹のチップ処理が中心になり、まだまだこの作業は続きそう。各Gはその後、野菜の収穫や春野菜・春花の準備に取り組み、こちらも手が抜けない。特に、ビオ班はレンコン池や池の水抜き作業の準備もあり、大変である。打ち合わせでは、12月の研修予定や忘年会の開催についての連絡が主なものになった。シニア実習生1名来訪。今年は例年になくシニアからの実習生が多い。

12月8日(木) 活動 晴れ 71名+25名

芋煮会。15周年記念と銘打ち、エコGが中心

となって盛大に行われる。多数の会員のほか、多くのビジターがサイトを訪れた。ますます当会の活動ぶりが外部に周知されてきたようだ。午前中は、この準備にエコGはかかりきり。芋煮のほか、会員提供のお米を使ったおにぎり、また漬物などを堪能する。参加者全員にいい思い出となり、また来年がんばろう、といった決意に結びついたようだ。エコGは芋煮会準備に、里山Gはしいたけ原木づくり、そして景観Gは第五地区の竹林整備を行う。また、ビオ班は近大生らと池の水抜きや水生生物調査、花班は春花の施肥、そしてパト班はパトロールのほか階段補修の杭作りに取り組む。いずれも暖かい天候に恵まれ、成果も出たようだ。



12月15日(木) 活動 晴れ 63名+5名

年末を迎え、忙しい一日になった。打ち合わせではインフルエンザ等への注意喚起や第五地区正式名称募集の依頼等が行われる。里山Gは迎春準備や枯れ木の伐倒、エコGはサトイモ収穫や肥料作り、そして景観Gはチップ処理を中心とした竹林整備に取り組む。また、ビオ班はドジョウ池の整備、花班は霜囲い作り、パト班はパトロールのほか階段補修用の杭の運搬に時間を費やす。来たるべき新しい年も順調に作業が進んで欲しいと思う。シニアから斉藤理事、奈良ボランティアセンターから職員2名、そして、昼休みに行われた注連縄説明会参加の2名の地域の方、併せて5名の来訪者があった。



里山グループだより

阿部和生

里山の今

里山グループでは「ならやま景観整備事業 10 年」の記念事業の一つとして、北斜面部分皆伐実験区跡地にサクラを植樹することになりました。昨年 12 月に一斉作業として植栽予定地手入れの除伐を行い、植樹穴堀が実施されました。数本のウワミズザクラやムラサキシキブ等を残し、ソヨゴ他の常緑樹の伐採作業は、多数の参加者の力により短時間で終了、人海戦術の大きな力を見せつけました。この後は 1 月～2 月に苗木を搬入し植樹を行いたいと予定しています。その際にも皆様のご協力をよろしくお願いします。

27 年実施の 2000 m²の部分皆伐区の手入れも、同時に実施していただき、発芽したアカメガシワやカラスザンショウ等先駆樹種が刈り取られ除去されました。この場所に昨年冬に植樹されたクヌギもしっかりと活着し、コナラ他の萌芽も観察できます。沢山のコナラの稚樹が懸命に背伸びをしている様子、アカマツの実生も見ることができ実に素晴らしいです。日本の山野では、少し時間を掛けて手をさしのべれば、元の状態に戻ることが確信できます。

温暖帯に属するこの地域の里山林では、人手を加え、常緑樹の跋扈を阻み、林床に光を入れる管理作業が欠かせません。持続的な資源の活用や里山の持つ豊かな生態系の保全には、人為による適切な規模の攪乱がなされることが必要です。識者は現在の里山に対して生物多様性などの環境機能、浸食防止などの防災機能、地域景観の保全、環境学習などの文化的機能という重要な機能を発揮させることが求められているといえます。学習→調査→管理計画→管理作業と進んできましたが、10 年の節目に今一度生物調査、景観作業を振り返り、伐採種や保全種の確認、伐採率・作業工程の設定の検討・共有などを行いつつ、さらに多くの方々と共に間伐・除伐・伐採後の整理などの管理作業を続ける事を皆様と検討したいと思います。

エコファームだより

川井秀夫

【ファームのオリンピック】

昨年 12 月 8 日。一年の総決算とも言える芋煮会が、十五周年の祝祭の一環として例年になく盛大に実施されました。90 名に及ぶ内外の方々が集まり、収穫された食材が調理されて初冬の柔らかい日を受け満腹感に浸りました。ブラボーの声なき声が溢れていたように思います。この一年、異常気象と自然災害に作物の暗いニュースも聞かれましたが、奈良地方では幸運に恵まれた歳時ではなかったかと自負しております。



オリンピック イヤーに因み、ならやまの作物を総合的に鈴木・菅野・富井氏と私の四氏で成果を検証してみました。(葉物を除く根菜・成り物 25 種を対象)

金賞・・大根・茄子・甘藷・里芋・唐辛子
銀賞・・黒米・豌豆・西瓜・椎茸・落花生
銅賞・・蕪・桜島大根・馬鈴薯・牛蒡・オクラ 等々。
予選落ち・・苺・枝豆・冬瓜・胡瓜・トマト

優劣はありましたが、この成果を今年に生かして参りたいと思います。なお、昨年は女性陣のアイデアで田圃に案山子のコンクールが登場、佐保台小のミニ案山子も花を添え楽しませて呉れました。芋煮会では話題になりませんでしたでしたが、これが本年の最優秀選手賞でしょうか……。

農作は不可抗力である気候変動に左右されますが、土壌作り・播種・育苗から収穫まで、人為のケア次第で結果が生まれます。来年の新しい課題の一つとして「蚕豆(空豆)」の育成を始めました。成功すれば初夏には皆さんの食膳に供したいと考えております。

農閑期を経て今年の芋煮会にはゴールドメダリストを倍增したいと願っております。

景観グループだより

羽尻 嵩



里山の今

パトロール班だより

菊川年明

* ビオトープ池からの報告 *

12月8日(木) 近畿大学農学部環境管理学科の研究室の北川先生と学生5名がタナゴ池の生物調査に来られた。



結果：バラタナゴ 21、ヨシノボリ 113、タモロコ 2、ドジョウ 21、その他エビ類、カワニナ類、ザリガニ多数。(タガイは夏に8個体死に、後の2個体は近大に預けたので今回はいない)

バラタナゴの数は予想通り少なかったが、ヨシノボリが昨年の92よりも増えたと、驚いたことは、体長12cm大のタモロコが4年ぶりに見つかったことだ。バラタナゴとヨシノボリは1月まで近大に預かってもらうことにし、タモロコは西池に放流した。

北川先生の話では、奈良県産バラタナゴは、来年のレッドデータブックで「野生絶滅」になるとのことでした。



<ニッポンバラタナゴ(オス) 体長5~6cm>

本会がならやまに進出し、里山の整備に着手したのは2007年で、ほどなく自然観察路の整備にも着手した。当初は踏み跡のようなところを、少し道らしくし、次いで、背丈以上に繁茂した笹のブッシュを切り開いて新たなコースを開設した。結果的には新設の道の方が多くなった。

その頃のならやまの山中はアカマツの腐朽木が随所に佇み、また、地面に転がっていた。しかし、コナラの倒木や落枝などはあまり見なかった。

ところが、2011年にカシノナガキクイムシがならやまに襲来し、瞬く間にコナラの被害木が目につくようになった。それから3年を経た一昨年辺りから顕著に枯れたコナラの倒木・落枝が生ずるようになり、毎週のように処理しているにもかかわらず、倒木や落枝は後を絶たない。今の時期、落葉樹の葉は散り果てて、空がよく見えるようになったので、コナラの枯木の乱立もよく見えて、恐ろしげな光景がそこそこに見られる。

整備した観察路も年を経て随所に傷みが生じてきた。損傷箇所は主として丸太階段で、腐朽である。損傷箇所が全面化してきたので、11月から組織的・計画的に補修作業をすることになった。丸太階段は現在40箇所あるが、補修を要する箇所はその半数に達している。この補修は今年度冬季中に完了させるべく取組中である。

里山班がコナラ林の萌芽再生の試験区を設けて皆伐しているが、その周辺を中心にアカメガシワ・カラスザンショウ・キリなどがたくさん生えてきたのも最近の特異な現象である。



(当初のならやまの掲示)

ならやま虫だより

菊川年明

◆東西と南北

この時期、ならやまの昆虫は冬枯れで、話題も乏しいので、別の話題を寄稿させていただきます。

*キリギリス

従来キリギリスは夏にギース・チョンと鳴く1種類の昆虫だと思われていたが、近年になって酷似した2種類のキリギリスがいることがわかった。以来、近畿地方以東に棲むものをヒガシキリギリス、近畿地方以西に棲むものをニシキリギリスに分けられた。近畿地方では両種が混棲している。

両種は体形・斑紋・鳴き方に微細な差異があるが、はっきりしていることは翅の黒斑がヒガシは鮮明、ニシは不鮮明、又はほとんどないという特徴である。近畿地方では両種が混棲しているが、奈良ではニシが多いように感じている。



左：ヒガシキリギリス 右：ニシキリギリス

*キチョウ

キチョウは大変身近なチョウであるが、南西諸島には酷似した2種のキチョウがいることがわかり、従来私たちに馴染みのキチョウ（北海道～南西諸島）はキタキチョウ、南西諸島にだけ棲む方をミナミキチョウ（又はキチョウ）と呼ばれることになった。両種の差異は極めて微細で、野外での識別は困難とのこと。ミナミキチョウは南西諸島限りの種であるから、私は写真でしか知らない。



キタキチョウ



里山の今

ならやま花だより

櫻木晴代

今回はならやま産のジュズダマについての報告とクイズです。

皆さまのご理解とご協力により、工作材料のジュズダマは予想以上の収穫を得ることができました。今後は、いかに花壇や畑に迷惑をかけないようにするかが課題になりそうです。

ジュズダマ



種まきから3年目
平成27年の収穫量
約4.60
????g
(ジュズダマの説明は
第164号に掲載)

ハトムギとの違い

ハトムギはお茶に加工されることが多いため、実を見る機会はありません。幸いにも11月の中旬、梅田での石川県の小さな物産コーナーでスタッフが袋に入れたハトムギの実を見せてくれました。「3粒程頂けますか」とお願いしたところ、お猪口一杯位くださいました。ジュズダマとの比較がしたいという念願がようやく叶ったのです。



ハトムギ*イネ科・ジュズダマ属の穀物・ジュズダマと同種・ジュズダマの栽培種

*漢方・薬用（いば取り、利尿、抗腫瘍作用）・化粧品（保湿作用、美白作用）等に利用

クイズです



珍しいジュズダマ



①今年収穫したジュズダマでブレスレットは幾つ作れる？ヒント：一つに13粒使用

収穫量は2551g

②工作用のドリルで一時間に平均何個のジュズダマに穴が空けられる？

*1月の活動日に回答用紙を配布予定です。

鳥シリーズ 1月号 小田久美子

とり年の「酉」と「鶏」

新年 明けましておめでとうございます。

薬師寺長老・喜光寺住職の山田法胤師が、喜光寺だよりに『酉歳におもう』を書かれています。

原文に影響の無いよう引用掲載させていただきます。

【今年の干支の「酉」は、動物の鶏と何の関係もない字です。「酉」という字の右に「己」と書くと心配とか配慮とか配達という熟語になります。「斗」を付けるとお酒になります。

どう考えても今年はお酒を飲んで浮かれているような一年ではなさそうです。心配事が多くありそうな歳です。だからといって鶏のようにバタバタ動いても解決するようなものは何一つない。

国際的には、北朝鮮、南シナ海、北方四島、アメリカの問題、東京を始め国内の諸問題も難しいことばかりです。そこでバタバタする鶏でなく「酉」という字の意味を調べると、この字は象形文字で、壺の中に色々なものを入れ、酵母菌を加えて蓋をして何ヶ月もじっとして置くと、菌によって中身が変わるという字です。

そこから、ワインもお酒も、焼酎も醸し出されて、初めの物が全く異なった美味しいものになったり、薬になったりするという字が本来の「酉」という象形文字です。

我々は物を見聞きし考える時、勝ち負け、損得、綺麗、汚いと二者択一して一喜一憂します。

今年の「酉」歳こそ、単純な答えに振り回されることなく、じっくりと考え、右か左かの答えではなく、第三、第四の智慧を醸し出す年にしたいものです。地球の限りある大自然を、経済発展ばかり考えて、公害を忘れ、地球温暖化、民族紛争、宗教戦争、人口問題、これらを壺の中に入れ、酵母菌を加え、蓋をして、何ヶ月も何年も、醸し出し、全く新しい智慧を生み出さないと人類の幸福も来るようには思えません…】とありました。

「酉」にはそういう意味があったのですね。

一方、日本最古の神社の一つの石上神宮では色々なバージョンの「鶏」の縁起物を沢山作っています、とのNHKニュースもありました。



こぼれ話

ビックリボン・ボン・ぼん！

桜木晴代

8月22日の活動日のことでした。

ホームセンターの在庫処分価格で最近購入したお気に入りの腰にぶら下げて使う道具入れ。この日はベルトを忘れ使用不可能に。

とりあえず、カメラと携帯電話を胸ポケットに入れ活動開始。花達に撒く水をバケツに汲む作業に加わりました。

夢中で水を汲み上げていると、水面に見覚えのあるものが浮いていました。何とそれは私の携帯電話のストラップ。慌てて拾い上げました。

エ？カメラは？？？ 水の底に沈んでいました。カメラの方が先に落ちていたのでしょう。水が濁っていたのと水しぶきで気が付かなかったのです。

どちらも直ぐに操作してみました。携帯電話は作動しましたがカメラはびくともしませんでした。

その後は気分はくらくらいまま。一刻も早くカメラの専門店で見てもらおうと活動終了後、梅田に飛び、先ず、メーカーの営業所に。祭日の為休み。目の前が真っ暗に。でも諦められません。梅田周辺の老舗のカメラ専門店数件を訪ねました。どの店も「水没したカメラは修理不能」と言う冷たい言葉のみ。

最後の手段は購入店からメーカーへの修理依頼。メーカーからの返事を待つこと10日程。答はやはり「修理不能」でした。

でもまだ諦められません。確か、会のBさんが里山林で落としたカメラが雨にも遭った後、発見され再び手に。数日後に作動したという話が頭を離れませんでした。

10月7日、思い立ち、バッテリーを充電し、カメラにセット。スイッチをONに。？？？なんと初期設定の画面が現れました。使用可になったのです。

家族もビックリ。祝杯をあげました。

メーカーも販売店も、こんな事があるとは思ってもいないでしょう。でも、これは、まさか？？の本当の話です。

何事も諦めてはいけません。

自然教室だより

11月・月例研修会

馬見丘陵公園自然観察会実施報告 辻本信一

今回も観察会直前まで当日の天候が見通せず、大変気を揉みましたが、ギリギリのところでは予報も一挙に好転、平成28年11月22日(火)予定通り11月度の月例研修会として、馬見丘陵公園での自然観察会を実施することが出来ました。

観察会当日はそれまでの寒気も和らぎ、時折り太陽が顔をのぞかせる絶好の観察日和となり、参加者も会員のお友達1名を含む17名と、ことのほか盛況となりました。



【池の畔紅葉のラクウショウ】

観察のコースは、当地でボランティア活動をしている阿部さんのアドバイスを受け、この時期イロハモミジやオオモミジの紅葉、更に湖畔に並ぶラクウショウの黄葉が楽しめ、植生も豊かな南側のルートを取りました。

最初に観察したのは、ケヤキの大きさの違う2種類の葉っぱ。大きい葉は光合成を一手に引き受け、小さい葉は実を付けた落枝が風に乗りやすいよう羽根がわりの役割を担っていることをみんなで観察しました。

少し歩けば、足元からかすかに甘い香り。そこには、「香出(かづ)」が語源とされるカツラの雄木と雌木がありました。その香りのもとには葉っぱの縁にある腺点。そこからマルトールと呼ばれる匂いの成分を分泌します。



【カツラの木の前で】

ルーペで観察すると鋸歯の先にキラッと輝く腺点が確かめられました。

イロハモミジ、オオモミジ、ドウダンツツジの紅葉を愛でながら更に進むと、春に黄色い花を咲かせ「春黄金花」、秋にはグミによく似た赤い実をサンゴのように実らせ「秋珊瑚」と呼ばれるサンシュユの木が鮮やかな赤い実をつけています。

その隣では、それに負けじとクロガネモチが赤い実を鈴なりにつけています。

ここでしばし一服。馬見丘陵公園でのお目当ての一つナガレヤマ古墳の頂上に上がりました。

この頃には青空も広がり頂上からの景色は絶景。錦織りなす紅葉のグラデーションをみんなで堪能しました。



【ナガレヤマ古墳からの眺望】

昼食を挟んで昼からの観察は陸橋を渡り更に南側へ、そこでは普段見慣れないウラジロガシの木がありました。シラカシとよく似た葉の裏側は蠟質で覆われ、シラカシの葉より白く、枯葉になるほどその色は増すといえます。

更にその近くには、本日のメインイベントともいえる「センナリアアカマツ」。樹齢10年程の若い木ですが、花序の雄花が雌花に転化、鈴なりに松ぼっくりが出来ています。



他にもエゴの実を求めてやってくるヤマガラ姿も見られました。終わって見れば今日一日で観察した樹木の数25種前後、充実した一日となりました。

次回は12月7日(火)、奈良公園にて今年最後の自然観察会を実施致します。



【エゴの実を求めヤマガラが】

第7回ならやま新蕎麦祭り (平成28年11月24日)

創立15周年記念

28年度新蕎麦祭りレポート

11月24日第7回新蕎麦祭りが賑やかに開催された。心配された空模様もお昼頃は太陽がのぞくお祭り日和となる。今回は創立15周年、ならやまプロジェクト発足10周年の記念の冠行事ということで、過去最高の80人が参加される大盛会となった。



午前11時45分、鈴木会長のご挨拶で開会。続く展示パネルの説明はそこそこに切り上げ、お待ちせしましたと、ならやまの新蕎麦が満を持して登場する。文字通りの「打ち立て、湯がき立て」の蕎麦に、「ふむふむ・・・旨いで」、「おいしいわよ」の声。蕎麦打ち冥利に尽きるひと時である。



「15周年記念に特別の企画を」との要請があつて、クラブでは、蕎麦の特別献立、写真パネルの構成、クイズの賞品に想を練った。

とくに蕎麦メニューは女性陣が何度も試作し、やり直した末「ぶっかけ」「にしん蕎麦」「蕎麦雑炊」「ネギおやき」「蕎麦ぜんざい」の5品に絞り込む。この苦心の蕎麦アラカルト、幸い皆様にご好評を頂きほっとするやら嬉しいやら。

そばの味は蕎麦粉の良し悪しで決まるという。今年は気候不順で収量は半減し心配されたが、関係者の努力で、蕎麦粉は薄緑がかつたいい仕上がりとなった。打つほどに香りが立つ出来栄を「ぶっかけ蕎麦」、で楽しみいただけたらどうか。



写真展示パネル「ならやま景観活動と蕎麦作り」は、10年間の景観整備の歴史と、その一環としての蕎麦クラブの活動を展示した。今昔の景観の移り変りの歴史を再発見し、意欲的に活動する往時の仲間の姿に感慨を覚えた方も多かったに違いない。



世に蕎麦打つ人は多いが、畑作りから蕎麦打ちまで一貫して実践できる幸せな例は少ない。ならやまに処を得て、会員のご理解とご協力のもと試行錯誤しながら集う蕎麦仲間28名、今後とも当会の活動に役立ちたいと心から願うものである。

(ならやま・そば文化クラブ 古川祐司 記)



収量当ての優勝は鈴木会長 賞品は田中さんの労作

自然教室だより

辻本信一

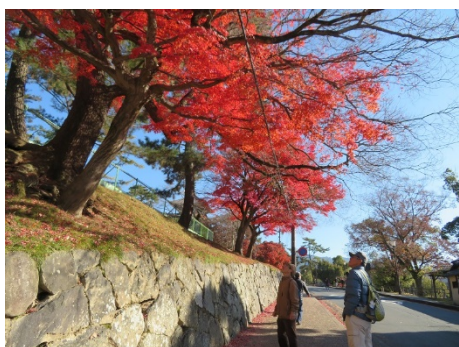
12月・奈良公園自然観察会報告

平成28年12月7日(水) 少し肌寒い朝を迎えましたが、日中はほとんど風もなく、明るい日差しのもと、最高の自然観察日和となりました。

午前10時、近鉄奈良駅、行基菩薩立像前に、女性4名、男性5名の9名の方にご参集いただき、和気藹々とした雰囲気の中、奈良公園における冬の自然観察会がスタートしました。

東向き商店街を通り抜け、三条通を東に折れ、一路春日大社の参道に向かいます。今年の各地の紅葉は例年より1~2週間早く、紅葉を鑑賞するには少し後れを取った感がありますが、幸い三条通りに枝を張り出した興福寺のイロハモミジの紅葉は健在、

明るい日差しのもと青空をバックにひときわ映え思わず足を止めてしまします。

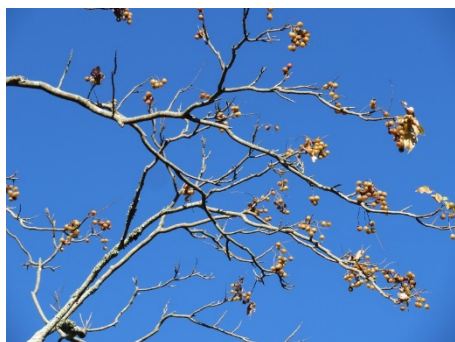


【興福寺イロハモミジの紅葉】

春日大社の一の鳥居を過ぎしばらく行くと、その左手には中心部から数本の竹が顔を覗かせた名物のムクロジの大木。見上げるとまるでセンダンと見紛う程に枝いっぱい実をつけています。

足元にも鹿に食べられずに済んだ実が落ちていました。それをつぶし水の入ったペットボトルに

入れしっかりと振り回るとみるみる泡立ち、確かにサポニン成分が含まれていると皆さん実感。



【鈴なりとなったムクロジの実】

国立博物館に通じる広場にあるサイカチの木に

も、同様にサポニンを含んだ豆のサヤ状の大きな実がいくつもぶら下がっていました。残念ながら、こちらは日が経ち過ぎていたのかあまり泡立ちは見られず。この後もサンゴジュ、クスノキなど、常緑樹の紅葉も自らの目で確かめながら、飛火野へと向かいました。

数日前から始まった鹿の愛護会による「鹿寄せ」は、この日も午前10時から催された様子。あちこちに食べ残しのマテバシイのドングリが見られました。そのせいか、この日私たちが準備したドングリに対しても反応は鈍いものでした。

お蔭で昼の弁当は鹿に邪魔されずに食べることが出来、ある面ラッキーな事も。ここで奈良の鹿についての情報を参加者の皆様にご披露させて頂きました。その時の資料は、後日、ならやまの活動日にも配布させて頂きました。(必要な方はメールで送らせて頂きますので、ご連絡ください。)

飛火野では、花芽を付け冬支度真っ最中のイ

ヌガシの雄木、雌木を観察、実が出来ている雌木の方が幾分花芽は少なく感じました。



【飛火野の銘木、雷のクスノキ】

坂を下ると、そこには名物の「雷のクスノキ」。本来痛々しく見えるはずの雷の痕も青葉を茂らせ頑張っている姿を見ると、思わず心を打たれ、ある種の風格を感じます。

大木といえば、この近くで見かけたイヌシデの

木も立派でした。よく見ると枯葉の様に見えたのはイヌシデの実。半月型が特徴です。まだまだ観察は続き



【イヌシデの大木】

ますが、紙面の関係で今回の報告はこの辺で…。

それでは次回観察会でまたお会いしましょう。

創立15周年記念

ならやま名物『芋煮会』

過去最多の参加者に賑わう！

12月8日、10回を数える芋煮会は、15周年記念行事として盛大に開催されました。朝は冷えましたが



日中にかけて好天に恵まれ、96名（ゲストを含む）の過去最多の参加者で、無事終了しました。

開会に当り鈴木会長から15周年の記念すべき芋煮会への思いを込めた挨拶を頂戴しました。

開会挨拶要旨

会長・鈴木末一

「ならやま名物芋煮会」は、2007年12月15日に第1回目が催されました。ならやまプロジェクト草創期、ベースキャンプの一面だけが整備途中という状況の中、会員家族19名に「ならコープ・スタッフ」10名等が合流。ならやまの美しい自然を満喫しながら、持ち寄りの「この一品」のオンパレードに舌鼓を打ち、志を同じくする方々とのつながりの輪の広がりを実感されたのでした。以来本年で10回目を迎えました。15周年記念の催しに相応しいメニューも盛り込んでいただきます。エコファームの皆さんが手塩にかけて栽培された、室町時代から一子相伝の伝承里芋を存分にお召し上がりください。



時を重ねること10年。リーダーも鈴木、富井、萱野の各氏へと移り活動も益々広がりを見せています。

今回の「15周年記念の感謝祭の芋煮会」を終えて、萱野さんより皆さんのご協力に対し感謝とお礼の気持ちが寄せられました。

有難うございました！ エコファーム・萱野勉

創立15周年記念と感謝祭を兼ねた芋煮会は、好天の下で盛大に開催することが出来ました。

主役は、ならやまで収穫した『里芋』。山形最上川の一子相伝「甚五右衛門」と「越前大野上庄」の伝統里芋。煮ても崩れず品のある歯ごたえとねっとりとした味わいの芋を堪能していただきました。

里芋は、産地の土壌状態に出来るだけ近づけることが求められます。また、連作障害の回避に5年の作付け間隔を保ちます。有機無農薬栽培にこだわり、夏場の水管理にも注意を払い、春から丹精込めて栽培したお蔭で今年も豊作でした。

掘り立ての里芋約300個を手作りの洗い機できれいに洗い、丁寧に皮を取り下ごしらえ完了。

その後、池田さんご夫婦と女性の皆さんで、里芋・牛蒡・人参・椎茸等ならやま産の食材をふんだんに使い、風味豊かな味の「ならやま名物・芋煮鍋」が出来ました。さらに、黒米おにぎり、むかごご飯、白和え、大根の漬物等が手際よく調理され、お昼前には絶品の料理が全て整いました。

エコファームグループの皆さんのご協力により無事に創立15周年記念と感謝祭を無事終えたことに心から感謝致します。

レポーター所感

三瀬英信

本会が会員の「和の力」で成り立っていることを改めて感じる一日でした。活動日の朝礼から各



種イベントの運営まで、役員・幹事と会員一人ひとりが自発的に活動する姿はかけがえのないものといえまし

よう。末筆ながら今回のレポートに際しお世話になった方々に厚くお礼申し上げます。

〈敬称略〉；鈴木会長／萱野リーダー（寄稿）・富井（企画書提供）・八木（参加者数確認）・木村裕（写真提供）・西出（お米提供）・平山（鯛提供）・池田夫妻（材料仕入、調理全般）

FFなら交流会・報告

吉川 利文

秋も深まった11月3日、フレンドシップ・フォース（FF）奈良の会員43人が、当会との交流のため、ならやまを訪れた。

FFって聞きなれない団体のため、当会の中には、戸惑いがあったのは否定できない。FFは、各国に作られた支部同士がホームステイをし合うことで異文化理解を深め合おうという、一種のボランティア活動である。海外に目を凝らしすぎるためか、ともすれば足元に無知、無関心となりがち。そこで、目的は違っても同じボランティア団体の当会と交流し、学び合おう、というのが交流会の主旨。

FF奈良は今年、高齢化対策の一つとして、準会員制度を設け、次世代養成に着手した。子育て世代の準会員と古参会員との触れ合いも狙いにあった。「小さな子の参加OK」と呼びかけたら、43人のうち、子供が16人。うち小学生が2人で、あとはなんと乳幼児。シニア会員、準会員とチビっ子たちの「三世代参加」となった。

午前中は親子で芋掘り。イモの重さ、蔓の長さ、形の面白さでコンテストし、トップグループに色紙やミカンなど賞品がどっさり。子供たちは有頂天だった。午後からは、大人は里山探訪、子供たちは西池で水生生物の観察と虫捕り。里山では、



辻本事務局長のガイドが「面白すぎ」と大好評、池では、説明役の羽尻副会長がドボンと転落したのに

ズブ濡れのまま説明を続ける姿に、子供はあつけにとられ、付き添いの親たちは感動しきり。

FF奈良では、しばらくはこの交流会の話題が絶えず、「ならやまの人たちは親切で優しかった」「また行きたい」と評価は絶大だった。

12月・月例研修会

「北・山の辺の道を歩く」

八木 順一

凍りつくような朝になった。10キロ余りの行程、大丈夫かなと思っていたが、参加者も25名を数え、びっくり。早速円照寺までバスに乗る。参道の途中で今日の日程やコースについて説明を受けた後、軽いストレッチ体操を行う。この頃から、日差しが出てきて、少し暖くなる。やっと一息つける様になった。そして、11時には最初の円照寺に到着。

ここでは、大和三門跡の一つであることや華道山村流の家元であること等の説明を受けた後、崇道天皇陵へ。天皇陵の由来を聞いた後は、小高い丘や

刈り取りの終わった田んぼ



等の中の山の辺の道を一路北に向かう。途中には嶋田神社や八阪神社など由緒ある神社がそここにあり、歩む足もしばし止まる。加えて植物に興味を持つ参加者も、道端の花や木の実等々に興味津々で、更に歩行スピードも緩む。しかし、こういった体験も、研修の重要な中身になり、更に沢山の参加者を集める機会となるだろう。そして、2時間余りのハイキングの後、昼食予定地の白毫寺下の公園に到着。ここでは30分余りの昼食時間だったが、かなり気温も下がり、座っているのも苦になるほどだった。

そして、1時半過ぎには近鉄奈良駅を目指して出発したが、行程はまだ半分。ここからも、新薬師寺や鏡神社を見学・参拝しながら、深い春日原生林の中を最後の春日大社へ足を伸ばす。ここでは中国や東南アジアからの観光客が多いせいか、あちこちで外国語が飛び交う。参拝をした後、15時30分に近鉄奈良駅集合を約束し一応解散。寒くて長い道のりの12月研修ハイキングも無事終了した。



隠れ古社寺 ひとり旅 (24)

達磨寺と王龍禅寺

歴史文化クラブ
川井秀夫

達磨寺

♪ダルマさんダルマさん にらめっこしまし
よー♪と童謡にも歌われ親しまれた本家本元の
王寺町の達磨寺を訪ねる。寒波が抜けて穏やか
な好天。王寺駅から国道168号線に沿って
15分、二線の入った白堀が続く。

日本書紀によると、ダルマは異人の化身とさ
れているが、達磨大師が日本の地を踏んだ事歴
は残されていない。インドの王子として生まれ、
禅の教えを中国に伝え、面壁九年、坐したまま
苛烈な修行を終えたと言う。手も足も出ないダ
ルマの姿は、この時に手足が退化したという伝
承による。

推古21年(613年)、聖徳太子がこの地を
遊行した際、一人の異人が飢餓に苦しむのを見
て衣食を与えたが翌日息絶える。遺骸を手厚く
葬るが、後日その場所へ行くと死体は消え衣服
だけが残っていたという。世人は達磨の化身だ
と奇跡に驚く。太子はこの場所に達磨塚を築き
精舎を建立したのが、この寺の草創の由緒とさ
れる。

臨済宗南禅寺派。本
堂に入り中央に千手
観音坐像(室町)、左
に聖徳太子坐像(鎌
倉)、右に達磨大師坐
像(鎌倉)。何れも木
造。なかでも達磨像は
鎌倉前期のもので彩



色も消え、髯もなく優しく微笑むようにも見え
る。前号で紹介した空想的禅問答の圧倒する絵
面の姿とは程遠いお姿であった。

偶然会った地元のガイドさんと歴史話をしな
がらサシで堂内を歩き。良い勉強が出来た。

王龍禅寺

蕎麦クラブの研修日。事実上の納会に出ての
帰路、坂東氏の紹介を受けた禅寺へ、羽尻氏の
愛車で門前まで送っていただく。この辺り「あ
すか野」と言い、新興の住宅が四囲に広がり、
残された丘陵全域が寺領となり山寺の趣がある。

「海瀧山」と刻した掲額の山門を入ると別世界。
鬱蒼とした照葉樹林が冬日を塞ぐ。長い石畳を
踏み、不揃いな百段に余る傾斜を上り詰める。
正面に本堂、横手に鐘楼・大黒堂が並ぶ。本堂
は堅く閉ざされ、法灯が僅かに堂内を照らす。

お目当て
の本尊であ
る南北朝時
代の磨崖仏
は堂内に取
り込まれ見
ることがで
きず残念で
あった。



この寺は
珍しく曹洞

宗から分かれた黄檗宗。聖武天皇の勅願で建立
され、郡山城主 本多忠平公が復興され菩提寺
になったと縁起に記されている。

人影がなく、烏天狗か悪鬼が出てくるような
雰囲気、寒さも加わり早々と下山する。

今回は未来を見据えた現代建築の達磨寺。忘
れられてゆく古刹の姿。有為転変の対照的な二
つの寺に、またまた無常観を得たように思う。

寺を出ると飛鳥C.C。昔、このショートホー
ルでOB打ったっけ。現実に戻り想念が駆け巡
る。おー寒い、早く帰って湯豆腐で熱燗だ〜。

俳句

監修 川井 秀夫

蕎麦屋台万灯籠の柿映えて

古川 祐司

蕎麦まつりの光景。里山のシンボルツリーの柿が撓わね。その姿を万灯籠の様だと、喩えの感性がお手柄。

ひよどり

鶉の唯我独尊木守柿

古川 祐司

木守柿は冬の季語。来年の実りを込めて梢に残した柿。野鳥の餌とする説もあるが・・・貪欲な鳥が我が物顔をする。

秋うららおみくじ箱に猫転た

坂東由紀子

十一月歴史例会。京都 梅宮大社のひと駒を切り取る。飼猫のふてぶてしい姿。動物の無心の態が愛らしさに。

紅葉映ゆ思惟の弥勒の嬬やかに

坂東由紀子

広隆寺の霊宝殿には、如来・菩薩・などあらゆる仏像が在す。弥勒菩薩は慈悲の心が肢体に溢れる。男性？女性？・・・

赫茶けて風の連れ添ふ

柞かな 小山喜子男

柞はコナラのこと。晩秋には落葉樹の葉も色を失い風に吹かれて旅に出る。もの哀しさに新生の輪廻が始まる。

長き列上野の秋にゴツホ来る

八木 順一

旅吟の佳句。美術館でしょうか。堵列する観客に芸術の秋を知る。事柄俳句の真骨頂。

石仏の瞳和らぐ年の暮

八木 順一

擬人化の一句。十二月が来ると、それぞれの感慨がある。石仏に託してホツとする作者の心境が垣間見える。

蛇塚の天蓋の垂き秋高し

坂東 久平

十一月歴史例会。太秦の街の中に石舞台を凌ぐ露積の古墳。異様な姿。被葬者は古代豪族 秦氏の首長か。謎・謎・謎。

落葉掻きおつむにひらり又ひらり

坂東 久平

この季節、落葉の掃除が日課の様。晩秋を実感するひととき。落葉をお札に見立てばお金持ちの気分になるよ・・・

山の辺の紅のひと粒藪柑子

櫻木 晴代

十二月例研。路傍の球果に繊細なまなざし。感性や佳し。ヤブコウジ科の最も小低木。作者の体格と対照の妙。

さくさくと心の弾む枯野みち

櫻木 晴代

この時季の山道は脚に優しい。「さくさく」のオノマトペが利く。四季折々の風情に心が高揚する。お名前の通り今日は快晴。

童らの騒ぎ残して初氷

西谷 範子

寒波襲来。登校時の学童たちの躁ぎ。温暖化の時代の気象現象に大騒ぎ。我々の時代、銭湯の帰り、手拭がパンパンになることも。

里山や四方に岡志の去年今年

鈴木 末一

新会長。飽くなき思いが募る。鳥の眼で蟻の眼で、よろしく。祝年が読めます。どうかお体專一に、総力で夢未来に向けて・・・

大盛りのお椀に和む芋煮会

川井 秀夫

今年の大根の旨さは格別。一根の全てに勝る、いやいや一芋も。平城山農場万歳。今年も青空市場よろしく頼んまつせ。

ならやま茶論

「気になる一言」

竹本 雅昭

翁：なんや、これはカワニナの歩いた跡やな。
クイズによくある迷路にそっくりや。

カワニナ：何がそんなに珍しいんです。さっき
から長いこと。チャッチャツとすることし
て帰ったらどうです。

翁：ほっといてんか、年寄りにな余り頑張った
らあかんねん、後で体にこたえるからな。
それよりあんたらこそノロノロ、ウロウロ
なにしとん。

カワニナ：あつしらは巻貝類で固いヨロイ着て
ますよって、少々でかい敵が来ても安心。
だからのんびり美味いもん捜しですわ。

翁：ほれ、目の前に旨そうなエビが来たがな、
早よ食べるとこ見せてんか。

カワニナ：これはあきまへん、あつしと同じ位
大きいですやん、とてもかぶりつけません
わ。逆にヒゲをチョン切られたらえらい損
害ですやんか。まして我々は植物を主食に
してますねん。

翁：なあ〜んや、あかん奴やな。あんたらのそ
の殻を作るにはえらいエネルギーがある
んやろ。

カワニナ：そりゃ一人前になるまでは大変です
けど、焦つてもしょうがおまへん。

翁：そうかそうか、ようけ食べて早よ大きなり
や。研究者によると、あんたら結構おいし
いらしいな。

カワニナ：そんな恐ろしいこと言わんといてく
ださい。皆さんと一緒に平和なビオトープ
であれと願ってますのに。

翁：すまんすまん、気になること言うてしもう
たか、早よ忘れてしまい。ほな行くわ。

〜終〜



癒の散歩道

野良猫と旅女の叙情哀歌

谷川萬太郎

貴方には塵漁りがお似合いと呟く

捨て台詞の裏で泣き濡れる哀しい私
まるで仲間を失った渡り鳥の様に

やり場のない寂しさにさ迷う野良猫
誰からも毛嫌いされる孤独の中で

醜い家鴨の子のような侘びしさが
見えぬ何かに怯え見知らぬ土地を探し
じっと身を潜めては あゝ命乞い

人の情に絆され裏切られ騙されて

捨てられた忘れ難き去年の寒い冬空
やつれた身体にか細い心の夢想花よ

一筋の灯り求めその篝火消すまいと
たかが野良猫 されど野良猫

今日も路地裏を当てもなく物乞い歩く
移りゆく季節を背にして見果てぬ

明日の空は涙色に染まる あゝ命儚く

流浪の旅に出た私は時を重ねて

荒海を渡り遥かな野山を越えて幾千里
母なる大地を求め夕日が眩しい

村の外れで旅する貴女に出会うなんて
気恥しい身体に温もり欲しくて

私は優しい旅人の胸に早く縋りたいと
汚れた身体を拭い辛い過去の衣を

自ら脱ぎ捨てたその姿 あゝ命萌えて

お茶目でお洒落な私が愛おしいと

目を細め喜んでくれた時は短すぎて
幸せは束の間の恋心の様に何時か

出会いの後に別れがやって来るとは
たかが野良猫 されど野良猫

夢破れさすらいのうらぶれた後姿よ哀れ
変わりゆく季節を背にして見果てぬ

向こうに続く涙坂よ あゝ命短かし

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活動予定日

1 月	5 (木) 26 (木)	12 (木)	19 (木)
2 月	2 (木) 23 (木)	9 (木)	16 (木)

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 haの里山林地（県有林）

◆ 集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆ 終了予定：午後3時

◆アクセス

① J R 平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分

② 近鉄奈良駅：バス 1 3 番乗り場 115 系統
8：28 発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統
8：36 発 J R 奈良駅西口行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

◆携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）

◆ 環境保護のため、お椀、箸、
コップなどは各自ご持参ください。

◆ 連絡先：八木 順一



里 山 Gr

1/5 新春初出式

枯死木伐倒・雑木伐採・下草刈り
マキ割り・マキ材料の運搬

1 2

枯死木伐倒・雑木伐採・下草刈り
マキ割り・マキ材料の運搬

1 9

枯死木伐倒・雑木伐採・下草刈り
マキ割り・マキ材料の運搬

2 6

枯死木伐倒・雑木伐採・下草刈り
マキ割り・マキ材料の運搬



景 観 Gr

1/5 新春初出式

整備：第五地区そば畑草刈り・チップ投入
ビオ：池の整備

花：七草の採取、柵作りと名札立て
パト：観察路全体パトロール

1 2

整備：BC 周辺草刈り／第五地区そば畑耕運
ビオ：湿地木道の補修

花：皇帝ダリア園の剪定と柵作り
斜面花壇の植付け

パト：丸太階段整備

1 9

整備：彩の森草刈り整備／佐保自然の森耕運
ビオ：西池生物調査

花：山野草園の整備と柵作り

パト：丸太階段整備

2 6

整備：彩の森草刈り整備／佐保自然の森耕運
ビオ：西池、東池水抜き・泥除去（変更もあり）

花：牡丹クサギの撤去、紅葉アオイ移植

パト：丸太階段整備

エコファーム Gr

1/5 新春初出式

冬野菜など収穫／チップ入れ

1 2

冬野菜など収穫／チップ入れ

1 9

冬野菜など収穫／水田外側溝
畦周り整備

2 6

冬野菜など収穫／水田チップ入れ
エンドウ支柱用竹取り



H28.12.15 第五地区に鹿が



行事案内 part 1

新春講演会

「父は空 母は大地 先住民の思想」

今年の「新春講演会」は、「夢・未来を語る集い」の前段として開催いたします。

昨年までとは、趣の異なるジャンルのお話を聞かせていただけたと思います。多数の皆様方のご参加をお待ちしています。

日 時：平成29年1月22日（日）

受付：9時30分～

場 所：奈良ロイヤルホテル・鳳凰の間

★°+.*.°...★°+.*.°...★°+.*

祝 創立十五周年記念

「夢・未来を語る集い」

2001年9月24日、シニア自然大学校OB 45名の方々が相集い、橿原市の県社会福祉総合センターでの設立総会において、自然観察会や講演会の開催、講師派遣などの活動を申し合わせ呱呱の声を挙げて以来、早15年の歳月が経過いたしました。

当時同校の理事であった川井秀夫（初代会長・現顧問）さんと奈良ネイチャーネット代表の谷口暁夫さんが、「自然を楽しみながら守り育てよう」と知己の方々に呼び掛けられ、会が誕生しました。

設立総会で詳細な活動計画について話し合われました。毎月定例の野鳥や草花の観察会、年間3～4回の環境問題の講演会、自然体験・教育活動のボランティア講師派遣などがあります。このような活動が連綿として今日まで継承され、更なる充実発展を遂げつつあります。

自然環境保全活動の本格的な活動拠点をと切望していた2007年、現在の「ならやま里山林」の景観形成ボランティア活動がスタートしました。

いこま棚田（生駒市西畑町）や奈良市忍辱山（国

講演会：10時～11時30分

（講演と質疑応答）

講 師：寮 美千子氏（作家・詩人）

（講師略歴）

小学館・おひさま大賞審査員

科学技術省「宇宙開発委員会」専門委員

和光大学非常勤講師「物語の作法」を担当

奈良県ストップ温暖化県民会議委員

奈良佐保短期大学非常勤講師「哲学と人生」

平城宮跡を守る会代表

放送大学面接授業講師「絵本で学ぶ哲学」

東北芸術工科大学非常勤講師

★°+.*.°...★°+.*.°...★°+.*

有林）での活動経験を礎に、7haから始まったプロジェクトも、10年を経過した今日16haまでに拡大し、会員数も発足時の3倍強にと生々発展してきました。

創立15周年・ならやまプロジェクト10周年の慶賀を祝し、『創立十五周年記念 夢・未来を語る集い』を開催することになりました。今日までご指導ご支援いただきました奈良県、奈良市初め関係機関の皆様方にもご来臨いただきます。

つきましては、公私何かとご多用のこととは存じますが、万障お繰り合わせいただき、ご出席いただきますようお願いいたします。

日 時：平成29年1月22日（日）

受 付：11時30分～正午

夢・未来を語る集い：正午～14時30分

場 所：奈良ロイヤルホテル・鳳凰の間

奈良市法華寺町254-1

TEL：0742-34-1131

アクセス：ホテルのシャトルバス利用

（同封の案内で乗車場所と時刻をご確認ください）

会 費：2000円

出欠のお返事：準備の関係により同封の葉書で
1月10日までをお願いします。

※ 平服にてお越し下さい。



行事案内 part 2

歴史文化クラブ 1月度オブション行事 「大神神社初詣と三輪山登拝」

新春、歴文クラブの恒例行事として大神神社の初詣とご神体「三輪山」への登拝を行います。

「大神神社」のご祭神は大物主神（出雲の大国主神の亦の名前）で国作りが成った後に、求めて御諸山（三輪山）に祀られました。まず大神神社の拝殿でお祓いを受け、三つ鳥居を通して神体山（三輪山）を拝した後、太古より神が鎮まる山として崇められる三輪山（467m）に登拝します。

登拝に当たり、狹井神社でお祓いを行い、入山致します。行程は山頂の大物主大神の依代・奥津磐座まで往復約4km、所用時間2時間30分程度です。古代の磐座信仰の雰囲気を感じませんか。歴文のメンバーには拘らず、広くご参加を募りますので、ご参加下さい。

<実施要項>

- ・日 時：平成29年1月10日（火）
- ・集 合：JR 三輪駅 駅前広場 9時10分
- ・近鉄 西大寺（8:25）・天理（8:46）JR 乗換
- *乗換時間が短い為近鉄電車は先頭車両に乗り。
- ・JR 奈良（8:34）・天理（8:51）・三輪（9:02）
- ・JR 桜井（9:06）・三輪（9:09）
- ・コース：JR 三輪駅～大神神社～狹井神社～山頂登拝～狹井神社 昼食：福神堂
- ・担当世話人 古川祐司 中井 弘 弓場厚次
- *参加申込：12月30日（木）事務局 古川祐司

2月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動

2月 2日（木）協働作業の日

2月25日（土）椎茸菌打ちイベント

*月例研修会

2月27日（月）冬鳥観察会

自然教室・1月自然観察会 冬の「ならやま」自然観察会

あつという間に1年が過ぎ、寒さ厳しい冬の季節を迎えました。こんな時期、私たちの活動の場である「ならやま」の里地・里山林内ではどのような植物が、どのような姿で冬を迎え春に備えているのでしょうか？

今年度はじめ自然教室チームでは、みなさまに私たちの活動の場「ならやま」の自然をもっと身近に感じていただこうと、春・夏・秋・冬、四季折々の観察会を企画致しました。今回は、平成29年1月11日（水）にその3回目となる冬のならやま自然観察会を実施いたします。

植物にとって冬の厳しさは、寒さだけではありません。冬の日照時間は極端に短く、十分な光合成も行えません。強風にさらされ、空気は乾燥し、最悪の条件が揃います。それでも植物は夜の長さの変化を読み取り、その先に春の訪れのあることを感じます。

植物たちの、冬に耐え春に備える健気な姿を目にすると、時に感動すら覚えます。この時期に見られる感動をみんなで分かち合いましょう。たくさんの皆様のご参加お待ちしております。

記

1. 日 時：平成29年1月11日（水）
午前10時～午後2時前後（予定）
2. 場 所：ならやまベースキャンプ
3. 持参物：弁当、飲物、防寒具、ルーペ、有れば図鑑
4. 進め方：私たちの活動の場であるならやま里地・里山林内で厳しい冬を耐え、春に備える植物の様子をみんなで観察し、豊かなならやまの自然を身近に感じていただきます。
5. 担 当：自然教室チーム
(辻本信一・桜木晴代・山本美智子)



平成28年・12月度幹事会報告

日時：11月29日（火）14：00～17：00

場所：奈良市中部公民館 2F 学習室

出席者：20名 欠席者：3名

議事：

I. 会長挨拶：東京 NPO センター20周年
記念式典（11/22）参加報告

II. 事務局・会計報告

- ① 会員数 152 名（1 名減、1 名増で変わらず）
- ② 会計報告：10 月度収支報告

III. 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

- 1. 3 ヶ月並びに当月スケジュールの検討と確認
- 2. ならやまプロジェクト関係：配布資料説明
チッパー借り入れにより竹林整備実施予定
- 3. 月例研修会（報告と予告）：会報記事参照
 - ・11/22 馬見丘陵公園自然観察会、
参加者 17 名
 - ・12/12 冬の「北・山の辺の道」を訪ねて
- 4. 自然教室（報告と予告）：会報記事参照
 - ・11/22 馬見丘陵、月例研修会と共同実施
 - ・12/7 奈良公園にて自然観察
- 5. 歴文研修（報告と予告）：会報記事参照
 - ・11/15 京都太秦・嵐山巡り、参加者 27 名
 - ・12/20 「地元史を巡る」と座学「平城宮跡保存の原点を探る」の 2 本立てにて実施予定
- 6. イベント（報告と予告）
 - ① 11/24 「新蕎麦祭り」参加者 76 名、過去最高
 - ② 12/8 「芋煮会」15 周年事業の一環として実施
 - ③ 12/12 「忘年会」ロイヤルホテルにて実施
 - ④ 12/22 「迎春準備」、1/5 「新春初出式」
- 7. その他
 - ・第 5 地区新たなネーミング募集、中間報告
 - ・平成 29 年度助成金申請状況報告

IV. 広報関係：ネイチャーなら 1 月号編集確認

V. 周年行事（事業）：

記念事業委員会より記念式典説明

記念編集委員会より完成報告

次回幹事会は、12/27(火) 14 時 はぐくみセンター
以上

◇ 申し合わせ ◇

- * 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日 19 時前の NHK の天気予報で、当該地域の午前の降水確率が 60% 以上の場合、中止とします。
 - * 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。
- 奈良県北部の降水確率は次の URL でも確認可能です。
(<http://www.jma.go.jp/jp/yoho/335.html>)
- * 臨時活動日を月曜日にする事があります。
(事前に担当役員から連絡します。)

◆ 継続は力なり



あけましておめでとうございます。いよいよ、周年行事のクライマックスとして、「新春講演会&夢未来を語る集い」と「創立十五周年記念誌発行」を迎えます。

創立から 15 年、ベースキャンプをならやまに構えてから 10 年となり、会員の皆様の汗と努力の積み上げで、素晴らしい組織となりました。

これからも活動を継続し、次の 15 年へ更なる発展をしたいと願っています。

15 年 活かして拓く 夢・未来

「ネイチャーなら」も会の情報発信の要として、皆様と一緒に内容の充実を目指してまいります。本年もよろしくお願いいたします。

(行々子)

会報誌 [ネイチャーなら]・第180号

発行：奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一

URL：<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：坂東久平